



P-67 : 作業道状況。



P-68 : 礫岩の残丘に表層風化したDH級岩盤が分布する。写真中央には風化した片麻岩礫を含む。



P-69 : 残丘に分布する表層風化した礫岩。



P-70 : 古い崩壊跡。露頭は確認されないが、礫岩、シルト岩、片麻岩の転石が散在している。



P-71 : シルト岩の転石。



P-72 : 片麻岩の転石。



P-73 : 崩壊中腹部。土砂の堆積は厚いものと想定される。崩壊は古く側部の形状が不明瞭である。



P-74 : 1m×0.8m 程度の砂岩転石。



P-75 : 沢筋沿いに分布する片麻岩の露頭。硬質である。



P-76 : 沢筋沿いに分布する片麻岩の露頭。硬質である。



P-77：尾根筋に露頭が続いている。上方も尾根の形状がはっきりしており岩盤は浅いものと思われる。



P-78：橋梁区間の終点付近。斜面上方は片麻岩の硬質な露頭が確認される。斜面中腹～下方部は礫を含む土砂が堆積している。



P-79 : 沢筋。特に手前は沢から流出した土砂が厚く堆積する。



P-80 : 岩井川の砂防ダム左岸側の斜面状況。硬質な片麻岩の露頭が続いている。節理面は、EW 60N、N60W 50N が卓越している。



P-81 : 岩井川砂防ダムの下流側左岸部。露頭が川沿いに続いている。



P-82 : 岩井川砂防ダムの下流側右岸部。露頭が川沿いに続いている。



P-83 : 砂防ダムの堆砂状況。φ10~20cm 程の角礫状片麻岩礫、コンクリート骨材が堆積している。



P-84 : 上流側から砂防ダムの堆砂状況。



P-85 : 橋梁予定区間。



P-86 : 橋梁予定区間。



P-87 : 沢から流出した土砂が三角錐状に堆積している。



P-88 : 岩井川の下流部。既存ボーリングでは、緩い沖積の粘土・砂層と段丘堆積物の分布が確認されている。



P-89 : 岩井川の河床状況。



P-90 : 岩井川沿いの露頭。硬質な片麻岩が分布。節理面は N20E 50N、N10W 85N、N35W 85S
が卓越する。



P-91 : 谷幅が狭く、片麻岩の露頭が両岸に続いている。



P-92 : 硬質な片麻岩の露頭。節理面は NS 55E、N85W 55N、N40W 60S が卓越する。



P-93 : 谷の中腹部。これより上流は谷幅が広くなるとともに、土砂の堆積が厚い。露岩は確認されない。



P-94 : 本来は谷斜面であるが、堆積と侵食の繰返しによって土砂から構成される凹凸状の地形を形成したと思われる。



P-95 : 土砂尾根の全景。



P-96 : 盛土計画部付近。湧水が滴下程度に流水する。



P-97：崩壊の滑落崖直下。ボーリング B-7 計画地点。現在の計画では建築施設の施工のため、掘削する見込みである。



P-98：崩壊頭部。露頭はほとんど見られず、土砂が厚く堆積している。



P-99 : 礫岩が丘状に残っている。岩質は比較的硬いが、その硬さはピックハンマーで削れる程度である。CL-DH。



P-100 : 円磨された ϕ 2~10cm 程度の礫を多く含む礫岩である。



P-101 : 新斎苑施設の計画予定地。



P-102 : 新斎苑施設の計画予定地。